

けいれん（ひきつけ）時の注意

横浜市小児科医会救急委員会作成

けいれんとは、急に体の一部や手足をがくがくさせたり突っ張ったりして、意識がなくなり、目が上を向いたり、焦点が合わなくなる状態を言います。

- けいれんに気づいたら、あわてて抱き上げたり、ゆすったり、頬をたたいたりしないで、お子さんを安全で平らな場所に、仰向けに寝かせてください。
- 時計を見てけいれんの始まった時間を確認してください。衣服をゆるめ、吐きそうな場合は吐いたものがのどに詰まらないように、顔を横に向けてください。舌をかむのが心配で割りばし等を入れると、口を切ったりして危険ですのでやめましょう。
- けいれんの状態をよく確認してください。特に目つきや手足の動き(左右同じかどうか)をよく見てください。
- けいれんが止まったらその時間を確認してください。体温を測定し、けいれん後の意識の状態をよく観察しましょう。
- けいれんはおさまっているが、意識がない(刺激しても起きない)、手足の動きがおかしい場合は、至急小児科を受診してください。

熱性けいれんとは？

発熱によりけいれんを起こすもので、乳幼児では比較的良く見られます。通常5～10分以内にけいれんは治まり、その後通常しばらく眠り、手足の麻痺や、意識障害などはありません。熱性けいれんを2回以上起こした場合は、けいれんを予防する座薬を使用する方法もありますので、かかりつけ医に相談してみましょう。

こどもの全身の状態をよく観察しましょう！

最も重要なことは、こどもの全身の状態をよく観察することです。以下の観察のポイントをチェック(☑)して、一つでも当てはまる時は、すぐに小児科を受診してください。

- 顔色が著しく不良。口唇が紫色。
- ぐったりして、明らかにいつもと顔つきも違う。
- ボーとしている。うとうとしてすぐに寝てしまう。
- 意味不明な言動がある。
- 水分が半日以上ほとんど取れていない。
- 尿が半日以上出ていない。